

院外茶話

vol.94 平成25年3月1日

昨日と変わらぬ今日の風景

そんな中でも

時折見つける

四季の節目

歩きなから 思う

毎朝、小一時間の散歩を日課とする。同じ道だと飽きると思って、いろいろなところを歩いてみたが、朝の繁華街は汚れが目立つ。急ぎ足で駅に向かう人は、誰も不機嫌そうで、駅方面には行かなくなった。



我が家の裏の遊歩道です。

自宅を出て、裏手に回るとすぐに遊歩道があって、これは昔の呑み川が蓋をされてできたもの。昨年だったか、自転車避けの柵も取り払われて、中に入りやすくなった。

灌木や草花も植わった散歩道に踏み込めば、後はレールに乗ったようなもので、身体が勝手に進んで行く。

毎朝、取り留めのないことを思いながら、歩くのが一番の楽しみ。

「昨日のウィスキーはロックではなく、水割りにしておけばよかった。」

「日本は島の所有権で、もめるくらいだから、ヨーロッパの国境紛争は大変だった。」

「そば屋はテーブルで食べるけれど、ラーメン屋はカウンターが多いのは何故か。」

何の脈絡もない思いつきを、他人に話すことはない。

そう言えば毎年、菊の花が咲く家があって、いつも大柄なお年寄りが道を掃いていたけれど、最近は見なくなった。

その先の家は高齢の二人がお住まいで、いつだったか奥様が骨折をした。介護をされる方はもちろん、する方だって90歳を越えているから、五体満足のはずがない。

高齢者の支援は、以前に比べれば充実してきたけれど、苦悩を訴えるのは高齢者。それを聞く現役世代は、「老い」が何かを知らない。

その年齢にならなければ、想像もつかない暮らしが、たくさんあるのだろう。



秋には柿が成るが採る人もいない。

遊歩道を過ぎると煉瓦敷きの道に入って、この辺は散歩をしている犬が多い。大型犬はめっきり少なくなって、最近は洋服を着せられた小さな犬が目立つ。

数年前から飼い主たちは、糞を始末するポリ袋の他に、ペットボトルに入れた水を持ち歩くようになった。犬がおしっこをする度にこれで洗い流すため、散歩の気遣いも大変になってきた。

煉瓦敷きの道が終わると、板を敷いた木道になって、歩くとカタカタと鳴る。木道の終わりには猫じゃらし公園があって、雑草の中に踏み込めば朝露がいっぱい。春にはここの桜が見